聴講しました

人と猫 平穏に暮らすために

猫問題を考えよう

「猫の講習会」より

同じ愛玩動物（ペット）でも登録義務のある犬よりも、なんとなく迎え入れやすいイメージの猫。飼い主がいない、またはあいまいな地域猫（野良猫）が多いのも特徴です。自由気ままな性質は魅力でもありますが、花壇や畑にふんをする、物置に入り込むなど、猫に悩まされている人も多いのが実情。北信保健所には猫に関する苦情が昨年度は55件、本年度は12月末時点で65件（内41件は中野市）寄せられ、件数は年々増加しています。

猫問題の解決に向けて学び考えようと、県動物愛護会北信濃支部は3月19日に中野市中央公民館で「猫の講習会」を開きました。人も猫も平穏に暮らすためにどうすれば良いのか、聴講した内容から一部を紹介します。（奏）

講師のしんけん動物病院・松木信賢獣医師（長野市）は、元県職員で動物愛護センターでの勤務経験も。現在は地域猫活動アドバイザー兼臨床公衆衛生獣医師として、猫問題に悩む地域の住民やボランティアなどと連携。動物移動手術車で県内各地を飛び回り、地域猫の不妊手術も行っている。

【 地域の猫問題とは？ 】

・地域で野良猫の生息数が増える

↓

・ふん尿、鳴き声、つめとぎなど被害

↓

・エサやりさん（猫ボランティア）と被害住民との感情対立

↓

・住民、ボランティア、エサやりさん、行政（保健所や自治体）との相互不信

この間にも猫は増え
状況はますます悪化…

「野良猫は増えてほしくない」が共通の願い

地域の中で猫が好きでエサやりをする人と被害に遭っている人との対立、行政への不信感など、イライラの連鎖を断ち切るための着地点は、「どの立場の人も野良猫は増えてほしくないと思っていること」。

「じゃあエサやりをやめればという声はもちろんありますが、猫はテリトリーを持つ動物。たとえエサ場がなくなっても餓死するまでその場に居続けます」。

問題解決への糸口は、「感情的にならず合理的に考えること。地域ぐるみで協力すれば解決できます」。

協力と連携、命への思いやりも大切に

地域猫活動は、不妊手術にかかる費用の問題や助成金について、捕獲器の設置や動物病院の手配など、知識や労力が必要に。住民、自治会や行政、ボランティア、獣医師など「みんなの歯車がかみ合ってこそ成し遂げられること」。

また、「野良猫にも大切な命があります」。むやみに捕獲したり、虐待するようなことがあれば「罪に問われる場合も。実際に警察が動いた事例もあります」。

野良猫だけでなく、多頭飼育問題の解決のきっかけとしても、近所のコミュニケーションが大きな力に。実際に動くことはできなくても、「見守りだけでも十分。1人ひとりのわずかな心遣いで実現できると信じています」。

猫の習性を利用 増やさない取り組み

実際に猫問題が改善できた千曲市での事例をもとに、「ちゃんと管理できれば5年で効果が表れる」という猫の習性を利用した「増やさない取り組み」とは。

①全頭不妊去勢手術をする

地域猫全頭を捕獲→手術（印として耳をV字カット）→元の場所に放す（TNR）ことで、繁殖はせず縄張りは守ってくれるので、新たな猫が居付くのも防げる。オスも手術することでケンカが減るので鳴き声対策に。

②頭数把握に努める

手術のための捕獲や、頭数の増減など現状把握のために必要。エサやりをする人が協力を。

③定時定点給餌、猫トイレの設置

時間と場所を決めてエサを与えると、猫は習性で必ずその時間に現れるようになり頭数の把握と手術のための捕獲が容易に。エサは置きっぱなしにしないことで、よそから来た猫が居付くのを防げる。またエサ場にトイレを置けば近隣のふん尿被害を減らせる。

④活動開始前、活動中、終了時の経過の見える化

行政や自治会の協力のもと回覧を回すなどして、手術の進行状況、頭数の増減など、地域に知らせて理解の上で進んでいることを伝える。

★飼い猫は屋内飼育に努めよう

猫を飼っている人は屋内飼育に努めるよう法律や県の条例にも定められている。愛猫の健康や安全のため、また周囲に迷惑をかけないよう配慮することも飼い主としての務め。「屋内飼育の猫は家の中が縄張りに。上下運動ができれば外に出なくても大丈夫です」。

・外に出る猫でも自宅に猫用トイレを置くことで、近隣へのふん尿被害を減らせる。（松木さんが家庭菜園にやって来る近所の飼い猫で実証実験済み！）

買取のまるよし イオン中野店で営業中！